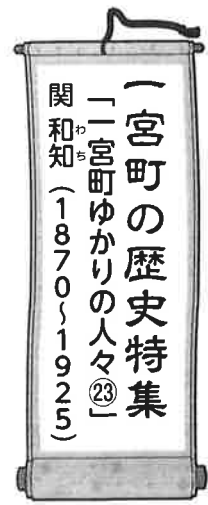


令和2年10月号



「一宮町の歴史特集」
「二宮町の文化財」
「二宮町ゆかりの人々」
関和知(1870~1925)

関和知は長生郡東浪見村(現在の一宮町)網田出身の政治家です。

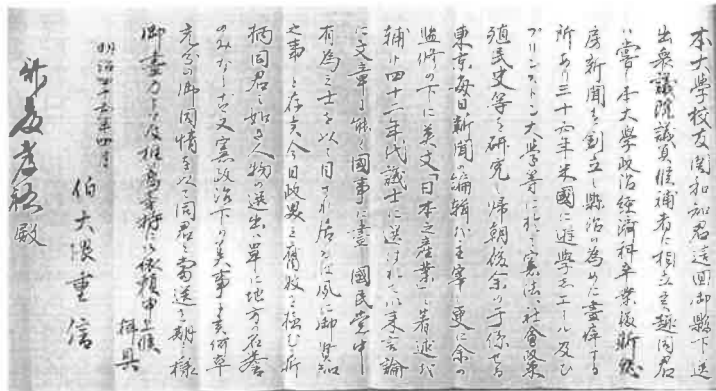
明治28年(1895)に東京専門学校(現早稲田大学)の邦語政治科を卒業。地元に戻って立憲改進黨機関紙の記者となりましたが、廃刊したため、『新総房』という新聞を自ら創刊しました。

明治35年(1902)から4年間アメリカ合衆国に留学。帰国後は『萬朝報』(日刊、日本におけるゴシップ報道の先駆けといわれる、昭和15年廃刊)の記者となり、その後『東京毎日新聞』(日本初の日刊紙、昭和15年廃刊)の編集長となりました。

明治42年(1909)衆議院の補欠選挙に当選、以降7回にわたり当選を重ねました。議員在任中は内務大臣秘書官などを歴任し、大正13年(1924)に加藤高明内閣が成立した時には陸軍政務次官(大臣等に次ぐ地位)に就きました。

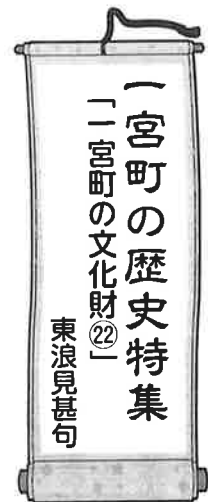
近年の古文書調査で、関和知の書簡や選挙に関する資料が少しですが見

つかっています。写真の資料はそのうちのひとつで、明治45年(1912)の衆議院選挙に際しての大隈重信(1838~1922、首相他)の推薦状(印刷)です。この他にもこの時の選挙のものはわかりませんが、読みの資料も見つかっており、関と地域との関係性をうかがい知ることができます。



▲大隈重信推薦状
〔旧齋藤家文書第2次調査〕C63-7〕

令和2年11月号



「一宮町の歴史特集」
「二宮町の文化財」
東浪見甚句

東浪見甚句は昭和40年(1965)に県指定無形民俗文化財に指定されています。

九十九里沿岸では、江戸時代から昭和30年代頃まで地引網漁が盛んに行われていました。この東浪見甚句は古くから伝わる民謡の一つで、かつては大漁祝いの席で、海の安全と次の豊漁を祈って歌われていました。昭和38年(1963)に保存会が作られ、現在も歌と踊りが伝えられています。東浪見地区の釣区集会所(東浪見75-1)近くには下のような記念碑が建てられています。今年6月には石碑の案内板にQRコードがつけられ、東浪見甚句を聞くことができます。

現在では毎年玉前神社門前で行われるさすが市で保存会により披露されます。また、東浪見小学校の授業の一環として踊りが伝承されており、例年10月末の町芸能音楽祭で発表されています。今年も新型コロナウイルスの影響で中止となりましたが、来年以降開催された折にはぜひご覧ください。



東浪見甚句が聞けます

左のQRコードを携帯電話で読み取り、アクセスしていただくことで、東浪見甚句を聞くことができます。

【問合せ】教育課 (学芸員 江澤一樹) ☎(42)1416